

臭化水素 (不燃性・毒性ガス 無色・刺激臭)

分子式	H B r	分子量	8 1	容器の色	ねずみ色
用 途	強い酸化剤により臭素を遊離する。有機や無機の臭化物を製造するための原料や触媒に用いられる。				
該当法規	高圧ガス保安法、毒物及び劇物取締法、消防法、労働安全衛生法、船舶安全法、航空法、港則法				
物理的性質	<p>不燃性・毒性の無色・刺激臭のガス</p> <p>比重：2.74</p> <p>沸点：-66.72</p> <p>許容濃度：3 ppm</p>				
化学的性質	<p>塩化水素によく似ているが酸化されやすい点異なる。</p> <p>過熱すると分解する。</p> <p>多くの金属と反応して臭化物を生じる。</p>				
注意事項	<p>容器は丁寧に取扱い、衝撃を与えたり、転倒させない。</p> <p>容器の取り付け、取り外しの作業の際は、漏えいしないよう、十分注意する。</p> <p>空気中の濃度を暴露限度以下に保つために排気用の換気を行うこと。</p> <p>吸入すると、死亡する危険性がある。</p> <p>漏えいすると、材料を腐食させる危険性がある。</p> <p>皮膚、粘膜など触れると炎症を起こす。</p> <p>この製品を使用するときに、飲食又は喫煙をしないこと。</p> <p>屋外又は換気の良い区域でのみ使用すること。</p> <p>充てん容器は、40 以下になるよう、直射日光を避け、通風の良いところで、転倒、破損が起こらないよう保管する。</p>				

臭化水素 (不燃性・毒性ガス 無色・刺激臭)

事故時の措置

消火方法	粉末消火器、大量の水、 一般の泡消火剤	処理剤	消石灰、炭酸ソーダ
漏えいしたとき	<p>バルブを閉めるなど、漏えいを止める。 容器からの漏えいが止まらない場合は、周囲に火気のない通風のよい場所に移動し、容器を直立させる。 施設からの漏えいが止まらない場合には、直ちに全ての方向に適切な距離を漏えい区域として隔離する。関係者以外の立入を禁止する。 作業者は適切な保護具を着用し、眼、皮膚への接触やガスの吸入を避ける。漏えいしても火災が発生していない場合は、密閉性の高い、不浸透性の保護衣を着用する。 風上に留まる。密閉された場所に立ち入る前に換気する。ガスが拡散するまでその区域を立入禁止とする。</p> <p>119番(消防署)に通報する。</p>		
火災のとき ・ 周辺での火災のとき	<p>危険でなければ、火災区域から容器を移動する。 消火後も大量の水を用いて十分に容器を冷却する。 消火活動は、有効に行える最も遠い距離から、無人ホース保持具やモニター付ノズルを用いて消火する。 漏えい部や安全装置に直接水をかけてはいけない。凍る恐れがある。 粉末消火器を用いて初期消火に努める。この際、防毒マスク等を着用する。 容器内に水をいれてはいけない。</p>		
救急処置	<p>吸引した場合は、被災者を新鮮な空気のある場所に移動し、呼吸しやすい姿勢で休息させ、直ちに医師に連絡すること。 気分が悪い時は、医師の手当て、診断を受けること。 皮膚に付着した場合は、直ちに汚染された衣類を全て脱ぐこと、又は取り去ること。 皮膚を速やかに流水又はシャワーで洗浄すること。</p>		
特記事項 (人体に対する影響)	<p>皮膚、粘膜など触れると炎症を起こす。 吸入すると、死亡する危険性がある。 漏えいすると、材料を腐食させる危険性がある。</p>		
緊急通報例 119 (消防署)	<p>1 どこで 市 町 番地 (株) 工場で 2 なにが 「毒性の臭化水素ガス」が 3 どうした 「漏れています。」 「消防車出動をお願いします。」 4 時間は 時 分 頃 です。 5 けが人は 「けが人がいます。救急車出動をお願いします。」 6 私の名前は 工場 課の です。</p>		